

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：公益社団法人 土木学会関東支部

土木広報活動または作品名：土木系学生のためのコンクリートカヌー大会

広報活動または作品の概要

土木学会関東支部広報部会では、「土木系学生によるコンクリートカヌー大会」を毎年 8 月に埼玉県戸田市の荒川貯水池彩湖にて主催しており、2017 年 8 月 26 日に第 23 回大会を迎えた（大会ポスター：【付属資料 1】）。大会目的は「土木の主材料であるコンクリートを用いたカヌーの製作とレースを通じて、ものづくりの楽しさを土木の将来を担う学生たちに実感してもらうこと」と掲げている。高校生・高専生・大学生からなるチームが、大会規定【付属資料 2】に沿ってコンクリートカヌーを製作し、事前提出した「審査資料の評価点」と「当日のレース点」の合計得点で優勝を狙う。技術賞、競漕賞、デザイン賞、セメント賞、敢闘賞、カヌーガール賞（2016 年度 第 22 回より新設）など様々な副賞も用意している。大会の様子と結果は【付属資料 3、4】を参考されたい。

同広報部会では、学生の熱いものづくりへの想いに応えるべく幹事 18 名と事務局が一丸となり、綿密なチェックリスト【付属資料 5】に基づき入念に大会企画、ルール改定、各種手配、チーム審査、当日運営などの一連を準備し、安全に大会を成功に収めることができた。



第 23 回大会の様相（左：集合写真、右：表彰式の模様）

産経新聞記事（2016 年 8 月 28 日）

広報活動の効果

本大会は 20 年以上の歴史と伝統があり、関東支部が最も注力する広報活動である。第 23 回大会では高校生・高専生・大学生による 28 校 38 チーム（第 22 回は 31 校 37 チーム）の参加があり、チーム登録者が 333 人（第 22 回は 422 人）のため、登録外の応援の学生等も考慮すれば毎年 500 名が参加する規模の大会である。歴代成績（【付属資料 6】）によれば、過去 23 回で延べ 682 チームが参加し、1 チーム平均 10 人強の参加とすれば、延べ 7,000 人以上の学生が参加した大会といえる。近年は参加校が関東内に止まらず、東北・九州・中部から遠路はるばる参加する常連校も多い。特に東北勢の入賞が目覚ましく、某高校のホームページには本大会への参加が示されている。関東に限らず、全国の土木系学生に知れ渡る大会となってきた。

本大会の大きな特徴は、学生が実際にセメントを扱い、自らが手作りしたもの（船）でレースを行うことである。審査とレースの 2 本柱のため、優勝候補のチームは製作へのこだわりも強く、当日はスポーツ大会のような熱戦が繰り広げられる。学会幹事のもとへ、「学生時代に本大会に参加した」という建設会社社員や工事現場作業員の声が届くことがあり、土木業界のイメージアップと将来の担い手確保に繋がる効果があったといえる。今回の応募対象期間 2 年間（2 大会）の参加学生にも、将来的に同様の効果が期待できる。

大会参加者には、参加証として全員に参加時の大会記念刻印をした彩湖（会場）のダムカードを、さらに第 23 回大会では彩湖完成 20 周年の記念ダムカード【付属資料 7】を併せて配布した。また、会場を通りかかる一般の通行人には【付属資料 8】のチラシを配布し、地域住民へ本活動の理解と広報に務めている。

付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）